虐待と その周辺領域 4

“包括的虐待”から読み取る 虐待間の関係と移行

橋本 和明（花園大学社会福祉学部教授）

前回は筆者が提唱する“包括的虐待”という概念を取り上げた。つまり、虐待を理解する上で、児童虐待だけに目を向けるのではなく、配偶者虐待や施設内虐待、障害者虐待などのさまざまな虐待との関係や移行を視野に入れながら、虐待を包括的に捉えていくべきであるというのが筆者の主張である。今回はその意義をもう少し詳しく述べることにしたい。

まず包括的虐待として捉えるもっとも大きな意義の一つとして、「虐待間の関係や移行の理解が深まること」が挙げられる。目の前にある単一の虐待だけを見ていたのでは、どうしてそのような虐待をしてしまうのか、あるいはそのような虐待をどうして受けてしまうのかがわかりにくい場合がある。しかし、個々の虐待同士の関係や移行を読み解いていくと思いのほか、虐待の発生機序について理解が深まったりする。虐待をしてしまう親が子ども時代にその親から虐待を受けていたという世代間伝達を考えてみよう。これは**児童虐待から児童虐待**への移行であり、この移行がどのようなメカニズムで起こるのかを理解することで虐待の防止や介入の糸口が見出せる。世代間伝達は児童虐待についてだけの移行を取り上げたものであるが、これを児童虐待に限らず、配偶者虐待をはじめとする他の虐待との関係や移行として包括的に捉えていくのである。

例えば、**児童虐待と配偶者虐待**についてはどうだろうか。過去に児童虐待を受けた被虐待児は、大人になって配偶者を持った場合に、配偶者虐待（いわゆるDV）をしてしまう危険が有意に高いと言われている。これは先の児童虐待の世代間伝達と同じように、被虐待児という被害者が虐待者という加害者に転じてしまう『被害と加害の逆転現象』なのである。児童虐待と配偶者虐待の関係はそれだけではなく、子どもの前で配偶者への暴力を見せつけること自体が心理的虐待としての児童虐待になる。さらにはDV被害者（母）がわが子への虐待者となるケースも希有ではない。そう考えると、児童虐待と配偶者虐待が同時進行で生起することから、児童虐待もしくは配偶者虐待を単一の虐待として理解することは望ましくなく、両者の虐待の関係を読み解いていかねばならない。

児童虐待と施設内虐待を今度は取り上げよう。虐待を受けた子どもは大人との関係に根深い不信感があるため、仮に施設や里親のもとに行くことになっても、そこで安定した人間関係をすぐには築きにくい。子どもは施設の職員や里親を怒らせる行為、いわゆる試し行動を繰り返し、本当に自分を大切にしてくれる人物かどうかを見極めようとする。しかし、あまりにもその行為が頻発したり過激であったりした場合、あるいはかかわる側の大人の理解が不足していたりスキルが身についていない場合、その子どもに体罰という虐待を与えることもないとは言えない。これなどは施設内虐待を児童虐待との関係から理解していく必要が感じられる。

配偶者虐待と高齢者虐待のことについてもそこに関係と移行が読み取れる。ある事例においては、これまで夫は頻繁に暴力を加えて妻を支配し、妻も夫に服従してきた夫婦であった。ところが、年月が過ぎて夫も妻も高齢となってきたその矢先、夫が脳梗塞を患って半身不随の状態に陥り、介護が必要な状態になった。妻はその頃から夫の介護をする際、夫の体をつねったり、叩いたりの暴力を繰り返すことになり、それが日増しにエスカレートしていった。やがて妻は夫に食事を与えずに放置することにもなったのである。妻から見ると、過去に夫から受けた虐待への復讐としての高齢者虐待とも捉えられるが、その場合も過去の配偶者虐待との関係を考えないことには、この妻の高齢者虐待の真の理解には及ばない。

最後に、**動物虐待と他の虐待**との関係も見逃してはいけないだろう。動物虐待の場合は、被害を受けるのは人間ではなく、動物という点では異質である。しかし、今やペットは家族同様に親密な関係があったり、ペットロスといわれるように、ペットを失った喪失感は家族を失った時と同じように悲しみは深い。では、動物虐待と他の虐待との関係をどのように見ていけばいいのであろうか。もっとも顕著なのは、児童虐待を受けた子どもが行き場のない怒りや不満を飼っているペットに向けたり、小動物を片っ端から殺していくということが挙げられる。ここにも『被害と加害の逆転現象』が起こっているが、動物虐待という不適切な行為をする子どもを単なる加害者として見るのではなく、虐待の被害者としての視点を決して忘れてはならない。また、別の事例では、夫から暴力を頻繁に受けているにも関わらず、家を離れずに配偶者虐待を受け続けた妻がいた。妻に家を離れない理由を尋ねたところ、「自分が家を出て逃げたら、愛犬が私の代わりに殺されるだろう。本当は愛犬を連れて逃げたいが、シェルターではペットは持ち込みできない。愛犬を見殺しにできないので、仕方なく夫の暴力に耐え忍ぶしかなかった」と妻は語った。そこには、配偶者虐待と動物虐待の関係があり、両者のことを考えてはじめて解決策が導かれる。

以上見てきたように、虐待を包括的に捉えていくことはケース理解の上でも、虐待への介入や防止の観点からも必要である。しかし、現状では個々の虐待に対応する機関や専門家が違うため、十分なことができていない。今後の虐待対応の大きな課題の一つと言えよう。